

陳情第8号

太安萬侶の墓誌の国宝指定に向けての意見書提出に関する陳情書

平成26年2月20日受理

陳情者



田原地区自治連合会

会長 浦 辻 俊 一

一昨年(2012年)は、西暦712年に稗田阿礼と太安萬侶によって、我が国の壮大な歴史が記された古事記が編さんされてから1,300年の記念すべき年でありましたので、古事記編さん者の太安萬侶の墓が存在する田原地区において、平成24年9月1日に奈良竹田研究会の協力を得て「古事記編纂1300年記念事業」を開催し、講師に慶応大学講師、竹田恒泰氏を迎え「古事記と太安萬侶」（後援：奈良県・奈良市・奈良市教育委員会）と題して講演をいただきました。

その講演で竹田恒泰氏は、「古事記とは当時の国内に伝わる古今の情報を調査し作成した正式な歴史書であるが、長きにわたり多くの歴史学者たちによって偽書であると言われてきた。しかし、昭和54年の太安萬侶の墓誌の発見によって、偽書説は立ち消えとなり、まさに世紀の大発見となった。発見者の故竹西英夫氏に、よくぞ発見していただいた、日本の歴史が証明された瞬間であった」と大いに感謝と称賛をされました。

また、太安萬侶については、日本語を書き記す方法を初めて編み出した大天才であり、その偉大な人物である太安萬侶の眠る田原地区は「日本の歴史が証明された町」であると絶賛されました。

その後、当地区では太安萬侶の墓の調査に携わられた大学教授による講演会や太安萬侶の墓前祭等を開催し、記念すべき節目の年に太安萬侶の顕彰と、地域の誇りを再確認した次第です。

ところで、故竹西英夫氏は生前、周辺の人たちに「太安萬侶の墓誌は国宝にすべきではないか」とよく話しておられました。

この墓誌は現在、国の重要文化財ではありますが、その歴史的重要性、国民的価値観からしても国宝指定に当たるものではないかと考えます。

以上のことから、奈良市議会として国際文化観光都市である奈良市のさらなる発展のために「日本の歴史が証明された町、田原」で発見された太安萬侶の墓誌が国宝に指定されるよう地方自治法第99条に基づく意見書を提出していただきたく陳情します。